

(縁・円・援)

兵庫えんだより



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

～オンラインで集う 基礎セミナー開催～

令和2年9月15日、生活支援体制整備事業基礎セミナーを開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大を考慮して、初めてオンラインで行いました。会場に講師だけは集まっていたが、受講生のみなさまに少しでも臨場感が伝わればと取り組みました。時間もこれまでの一日研修から半日研修に変更し、オンライン上の講師の話に耳を傾け、演習も一人孤独な作業になってしまいましたが、こんな時だからこそ集まりたい気持ちがひとつになりました。

生活支援コーディネーター 基礎セミナーの概略(参加者75名)

【行政説明】「地域支援事業の概要」

講師：兵庫県健康福祉部少子高齢局高齢政策課 地域包括ケア推進班 班長 山田 真太郎氏



- 地域包括ケアシステムとは…まとめる仕組み(専門職)巻き込む仕組み(介護分野以外を巻き込む・住民等の参加)がポイント
- 社会参加しながら地域づくり…社会性を失わなように高齢者だけでなく地域でつながることがもうひとつの介護予防
- 地域ケア会議と地域支援事業…重度・軽度・専門性・住民の自主性。重なり部分が重要。他の事業とも連携が図れる。

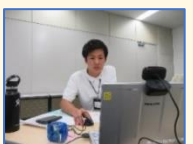
【講義】「わがまちにおける地域づくりを実現するために、私たちが果たす役割」

講師：兵庫県社会福祉協議会地域福祉部 部長 戸田 達男氏

- 生活支援体制整備事業には生活支援 CO と協議体の二つの柱がある。しかし、そのとらえ方の差で混乱もあり、「兵庫生活支援体制整備の手引き」を作成
- ①地域の理解 ②協議・協働によるネットワーク ③活動展開 大切なのは①の関係づくり。協議体は①～③のすべての協議の場
- 協議の場のポイントは、協議体づくりではなく、住民主体の話し合いの場づくり。住民が関心を持って話し合える場。高齢者の課題だけに限らない。
- 見える化は、①生活支援 CO の活動の記録・報告 ②住民の活動の見える化(小地域福祉計画等)

【実践報告】「生活支援コーディネーターの実際の取り組み」

報告者：西宮市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 中川 俊亮氏

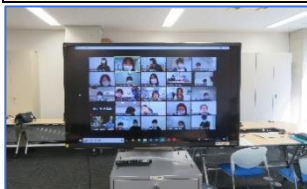


- 「共生のまちづくり」をめざす…当事者主体・相互エンパワメント
- 地域を知り、地域に知ってもらおう…地区社協から地域福祉以外にも自由に動く
- 新たなつながりづくり…行った先で紹介してもらおう(商店街・子育て・障害当事者)
- 新しく出会った方々と話す…思いに共感、一緒に悩む→話し合いの場をつくらう。
- あったらいいなを生み出す。 ※これらを住民と行ったり来たりする。

報告者：豊岡市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 渋谷 将司氏



- 住民主体の地域づくり…住民が課題と思うことをサポートする。
- まちづくり協議会…地域福祉が加わった。
- 悩み三点…①住民自治と同時期 ②なぜ社協がかかわるのか ③支援者の孤立
- 意識した取り組み…①地域に向かう ②記録・整理・分析 ③目標を持った活動
- ④新たなつながりを生む。
- 大切にしていること…①信頼関係づくり ②「見える化」を意識した取り組み
- ③連携・協働した取り組みの実施(ネットワーク化)
- ※地域のいたるところ、小さなところの 課題に目を向けている。活用してもらえようになること。活動の土台づくり。



【発行元】(令和2年10月13日発行)
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当:山下・永坂)

「兵庫えんがわナビ」が始まりました！

～県内がオンラインでつながる～

「兵庫えんがわナビ」に込めたもの

地域づくりのゴールは遠い。時には迷い、悩んで止まることも。だからこそ、一人ではなく、仲間と一緒に進んでいきたい。こんな願いを込めました。縁側に座って話すように、気軽に話せる場があっちこっちにできればよいと考えています。



1. こんな悩みごとがありました

Goal

このゴールは何でしょう。地域づくり、専門職としてのスキルアップ、仲間づくり等さまざまな目標を含めています。

来月初めて協議体を立ち上げる。何をどうすればよいのか？

第1層生活支援Coとして行き詰った…。

コロナを含む他の地域はどんな活動をしているのだろうか？

入って間がなく何もわからない

地域での活動で住民との関係が崩れそう…。

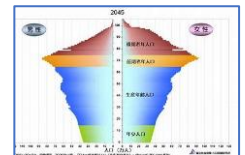
参加者の声

えんがわナビ 五か条

1. この会は、自由に話せることを目的としましょう。
2. 出入りは自由です。えんがわに座っているときは真剣に他の人の話に耳を傾けて、学び合う姿勢で参加しましょう。
3. 話を聞きながら、しっかりとうなずき、反応しましょう。
4. 気軽に積極的に発言しましょう。
5. 生活支援コーディネーターのみなさんで、テーマ・内容を決めましょう。

2. さらにこのテーマで話し合いました！

- ①コロナ禍での活動状況（地域活動・休止中のアプローチの仕方）
 - サロン再開に関しては、条件決め協議をしてグループで決定する。
 - 参加していない人にはマスクを配る。室内が難しければ外でする。
 - 再開が困難な条件（交通弱者、会場の広さ等）がある場合は協議体で協議する。
 - 今後は、小さな単位での集まりも考えていく。
 - 課題を住民に戻し話し合うことが大切
- ②協議体の感染予防はどのようにしたか。
 - マイクをその都度消毒。机の配置を広げる。マイク用の消毒薬もある。
 - 間隔を1mはあける。教室形式で開催
- ③はじめて協議体を開催するのだがどうすればよいか（新人の第2層CO一人）
 - 何をしたいかをしっかり伝える。
 - 住民が気が付いていない地域の問題を提示してみる。
 - 集落ごとの人口ピラミッドを資料として持っていくと話しやすい。
 - 困りごとだけでなく、面白いこと。コロナの課題は学習会にしてもよい。



3. これからの方向性

- 当面は月に2回開催する。
- 近況報告の日、課題の日に分かれ、参加状況により、少人数制（一グループ5～6人）等臨機応変に話しやすい状況にする。
- グループで分かれた場合も後半に全体共有する。

4. 次回予定

- 第3回：10月 23日（金）
15：00～17：00
- 第4回：11月6日（金）
15：00～17：00

【編集後記】

新型コロナウイルスの感染拡大で、新たな生活様式が問われるようになりました。オンライン研修、オンラインでの交流会。今までは想像もしなかったことですが、行ってみると、意外にも距離を感じず、思いに触れられることもわかりました。いま、大切なのは、だれしも孤立させないこと。それは、地域住民だけでなく、職場、家族、友人、そして、あなた。誰かがそばにいてくれることで、人は前に進む勇気が湧いてくるものです。支え合う意味を再度考え直した時でした。